

福山大学 社会連携センター 令和元(2019)年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的

領域: 使命・目的、教育目的

2019年度

社会連携センター

中長期計画	広範な社会連携活動を行うことは、開かれた大学、地域に根ざした大学を実践することであり、この活動により社会からの信頼を得、地域における存在意義を高めることになる。大学が若い学生を受け入れて将来地域を支えるべき人材を輩出するという目的を持つことは言うまでもないが、社会連携活動は受験生に魅力的な大学であることを発信するということも担っている。これらの目的を達成するための住民・社会・産業に対して下記5項目の直接かつ双方向的な社会連携活動を実施していく。 (1) 地域連携事業: 知(地)の拠点としての役割強化、公開講座、技術講習会、地域活動への参加などの双方向的な事業および高齢者の学び直しを含む社会人のリカレント教育 (2) 高大連携事業: 小中高生を対象とする様々な学問領域への誘い、高校から大学への円滑な接続、キャリア形成を目的とした講義・実験を通じた興味の喚起などの事業、大学という場の提供 (3) 産学連携促進事業: 研究成果に基づく知的財産育成と産官学連携事業、より機能的な情報発信、産学連携スタッフの配置、ベンチャー起業への挑戦、知財の啓蒙活動 (4) 近隣の大学との連携促進事業: 協調・協力した教育プログラムの実践など (5) 宮地茂記念館の活用
-------	--

2019年度

社会連携センター

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	社会連携センターポリシーは、大学の第三の使命である社会貢献を目的とした具体的な4つの使命を明記している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センターHP https://www.fukuyama-u.com/rcosr/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	4つの使命は、「地域」に重点をおいた内容としている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センターHP https://www.fukuyama-u.com/rcosr/
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	ポリシーでは日本の現状と課題だけでなく今後の技術進化や大学の役割についても触れている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センターHP https://www.fukuyama-u.com/rcosr/
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	社会連携センターポリシーに関連する情報や活動をセンターニュースで教職員に配信している。
年度目標	社会連携センターニュースを通じて教職員の意見を収集する。
年度報告	毎月社会連携センターニュースを教職員に配信できた。ニュースにて意見収集を試みたが意見がなかった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センターニュースVol.19～Vol.30
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	社会連携センターHPにて公表している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センターHP https://www.fukuyama-u.com/rcosr/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	産学連携・知財、地域連携は事業が定式化されているが、高大連携については2018年度から中国ネットワーク関連事業が新たに追加された。高大連携関係では事業が増えることも想定されるので、2019年度の実績を踏まえて中長期計画を検討していく。
年度目標	今年度中に中長期計画の見直し検討を行う。

年度報告	中長期計画を再検討し運営委員会に諮った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①社会連携センター中期計画 ②運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	社会連携センターの活動内容は、三つのポリシーとは直接関係しないため反映させていない。ただし、使命・目的は福山大学の「地域の中核となる幅広い職業人の育成」というミッションに基づき作成されている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センターHP https://www.fukuyama-u.com/rcosr/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	センター長・副センター長(ともに兼任)のほか専任教員が1名、ほか運営委員会委員として各学部・事務から計16名で構成されている。3部門で活動内容に差異はあるが、現状では問題ない。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センター運営委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

基準2. 学生

領域: 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2019年度

社会連携センター

中長期計画

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	

達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	

次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	

達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	

次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	

年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

基準3. 教育課程

領域： 卒業認定、教育課程、学修成果

2019年度

社会連携センター

中長期計画

2019年度

社会連携センター

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	

年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	

次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	

根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

基準4. 教員・職員

領域: 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2019年度

社会連携センター

中長期計画	社会連携センターのスタッフは、担当副学長を筆頭に、センター長、副センター長、専任教員、事務が核となり方向性を定め、3部門長（地域連携、産学連携・知財、高大連携）を含めた中枢で運営マネジメントしている。各学部から選任された教員は先の3部門に所属し、社会連携センターの活動が行われている。現状の体制や事業に大きな課題はないが、下記が検討項目として挙げられる。 ・実際の事業内容に応じた部門数と配置教員数の検討 ・学外文書窓口の明確化 ・各学部から選任された教員の研修（特に、契約事項での留意事項）
-------	---

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	社会連携センター規則に則り、センター長および副センター長は評議会の議を経て学長が任命する。運営委員会は、センター長、副センター長、産学連携部長、知財部長、地域連携部長、高大連携部長、各学部から選出された3名の教員から構成される。運営委員会の委員長および議長はセンター長が充てること、が規則に明記されている。また、センター長は担当副学長や前記幹部および担当事務と協議し、方針の検討を行っている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センター規則
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	社会連携センターの3部門(地域連携、産学連携・知財、高大連携)に部門長を置き、各部門の活動の計画・実施を担っている。運営委員会で活動報告を行う。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	社会連携センターの業務における事務手続きや文書管理は、企画・文書課が対応している。大学内外からの窓口は専任教員が対応している。センター3部門の業務は、各学部から選任された委員を配置し運営している。役割が明確化され、教学マネジメントの機能性を高めている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センター運営委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取り組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	・専任教員の外部講習会への参加を奨励している。 ・イベントにおける教職協働を意識した活動を心掛けている。

年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①活動リスト ②主な活動 福山大学HP (https://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	社会連携に関する情報はメール発信とし、契約雛型はHPからダウンロードできるようにしている。Office365 SharePointに社会連携センターの共有データを保存し、閲覧できるようにしている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センターニュースVol.19～Vol.30
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	

根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

基準6. 内部質保証

領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2019年度

社会連携センター

中長期計画	社会連携センターの組織は、担当副学長を筆頭に、センター長、副センター長、専任教員、担当事務および3部門長(地域連携、産学連携・知財、高大連携)を中心スタッフとして構成されている。先の3部門に各学部から選任された教員が委員として所属している。 年度始めの運営委員会では年度計画・予算を説明し、前期末の運営委員会では次年度計画・予算要求が審議される。その他、運営委員会では事業実施後の反省点・改善点が協議される。今後、自己点検評価項目を考え年度末に運営委員アンケートにより、センターの自己評価を検討する。
-------	--

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	・中心スタッフの構成は、センター長、副センター長、専任教員、担当事務、3部門長である。中心スタッフで協議し、意思決定と役割を明確にしている。 ・自己点検は、福山大学社会連携センター自己点検評価委員会細則に則り、センター長・副センター長・3部門長・専任教員から成る自己点検評価委員会(委員長:センター長)にて審議する。 ・自己点検評価実施小委員会による点検結果を反映させた自己点検報告書・計画書は、社会連携センター運営委員会(委員長:センター長)で審議する。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①メール審議(受託・共同研究、中国ネットワーク) ②社会連携センター自己点検評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	社会連携センター自己点検委員会の規程に従い作成された自己点検報告書を運営委員会に諮ることにより共有化されている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センター運営委員会議事録 ②H30年度自己点検評価報告書 ③H31年度自己点検評価計画書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	公開講座に関しては参加者アンケート情報が蓄積しているが、若者参加者の増加という課題改善には至っていない。その他、社会連携センターに求められるIR情報は何かが定義できていない。
年度目標	社会連携センターが提供できるIR指標・情報および当センターに求められるIR情報を検討する。
年度報告	受託研究・共同研究に関して分析を行った。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①社会連携センターニュースVol.29
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	社会連携センター自己点検評価委員会細則に則り、評価委員会を立ち上げ、計画書・報告書を作成する。作成した自己点検計画書・報告書を各学部学科の代表者で構成される運営委員会に諮り、その内容を認知させている。 機能性の検証方法は、以下の通りである。 ①計画と実施の差異を分析するとともに、実施における課題の有無を検討する。 ②①で差異が大きい場合、実施上の課題を含め対策を検討する。 ③自己点検報告にて運営委員に報告し、計画にて改善を図る。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価 (本学独自基準)

2019年度

社会連携センター

中長期計画	社会連携センターは、福山大学ブランディング戦略と地域社会とのコーディネータ的な役割を果たせるのが望ましい。ただし、社会連携センターの専任教員は1名であり、出来ることは限られている。そこで、社会連携センターでは以下を検討する。 ・宮地茂記念館における「福山大学ブランディング」の常設展示(他の委員会と協働で実施) ・学生向けとして7号館に「福山大学ブランディング」情報閲覧室を開設(他の委員会と協働で実施)
-------	--

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	㊶ 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	学生は不在で専任教員は1名である。専任教員への周知はできている。他の兼任教員は本籍にて周知されている。
年度目標	現状維持
年度報告	研究成果発表会で福山大学ブランディング関連研究をまとめ、ブランディングにスポットを当てたイベントを企画実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度研究成果発表会ポスター ②2019年度研究成果発表集
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊷ 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	社会連携センターは広告ではない分野でブランディングに関する企画・実施をする組織ではないため、特段の取組みはない。研究成果発表会を通じて、社会への広報を支援している。
年度目標	現状維持
年度報告	研究成果発表会で福山大学ブランディング関連研究をまとめ、ブランディングにスポットを当てたイベントを企画実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度研究成果発表会ポスター ②2019年度研究成果発表集
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊸ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	学外の産学官と包括協定を結び、教育研究を通じて人材育成できる環境を整備している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山市と福山大学との連携に関する包括協定書
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	地域の産学官民と教職員の接点として、毎年、研究成果発表会を企画・実施している。来訪者にアンケートを依頼し、改善点については次年度に活かしている。社会連携センターが作成している研究者情報一覧及び研究成果発表集の冊子を用いて福山大学の研究力の認知を図っている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度研究成果発表会報告
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	社会連携センターは、直接、人材育成をする部署ではない。学外との連携による人材育成に関する情報は適宜、関係部署に伝達し取組みできるよう配慮している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①社会連携センターニュース Vol.19～Vol.30
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	社会連携センターは、備後地域との連携による教育研究の環境を整備し、様々な情報を教職員に配信している。また、教職員の連携成立までの支援を行っている。
年度目標	協働事業契約の状況(新規契約、継続状況)を把握する。
年度報告	平成29年度末に新たに設けた制度「協働事業契約」は、平成30年度に14件、令和元年度に13件が締結され、地域との連携が深まっている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①協働事業契約書(27件)(2018年～2019年度累計)
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	社会連携センターは、直接、人材育成をする部署ではない。学外との連携による人材育成に関する情報は適宜、関係部署に伝達し取組みできるよう配慮している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①社会連携センターニュース Vol.19～Vol.30
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

社会連携センター

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	社会連携センターは、直接、研究を実施する部署ではない。「瀬戸内の里山・里海学」の研究成果が地域貢献として反映できるようプロジェクトを支援する。
年度目標	現状維持
年度報告	研究成果発表会で福山大学ブランディング関連研究をまとめ、ブランディングにスポットを当てたイベントを企画実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①研究成果発表会ポスター ②研究成果発表集
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	社会連携センターは、研究実施部署ではないので獲得のための取組みはない。教員が外部資金を獲得する機会を逃さないよう助成金関係の情報を配信している。
年度目標	現状維持
年度報告	外部資金に関する情報を社会連携センターニュースで全教職員に配信した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①社会連携センターニュース Vol.19～Vol.30
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	社会連携センターは、ブランディング研究の実施部署ではないので成果を保有していない。研究成果発表会の実施、HPへの研究成果発表集の掲載、などを通じて教員の研究成果を社会へ発表している。

年度目標	現状維持
年度報告	研究成果発表会で福山大学ブランディング関連研究をまとめ、ブランディングにスポットを当てたイベントを企画実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①研究成果発表会ポスター ②研究成果発表集
次年度の課題と改善の方策	